

生涯学習・社会教育関係職員研修講座【下北地区研修】

9月26日(火)13:30~16:00 むつ合同庁舎 受講者14名(オンライン含む)

1 趣旨

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上とネットワーク形成を図ることを目的に、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得のための研修を行う。

2 内容

【講義】「事業の企画力の向上」

弘前大学 教育学部

准教授 越村 康英 氏



3 講義要旨

- 今回の研修会では、「社会教育事業をつくる」とはどういうことかについて、いくつかの「事例」をもとに考えてみましょう。
- 住民とともに、住民参画により公民館事業を創っていく姿勢が大切です。公民館事業は「誰のものなのか」「何のためにあるのか」を明確に捉えるようにしましょう。
- 社会教育職員に求められる力とは、住民の「生活」や「地域」の中からテーマをつかみ取ろうとする姿勢、テーマを見逃さない洞察力だと考えます。
- 事業を共同的にふり返り、そこから見えてきたことを次の事業に活かしましょう。この「実践と省察のサイクル」を大切にすることが、事業の企画力を高め、社会教育職員としての力量・専門性の形成につながるのではないのでしょうか。

4 受講者の感想から

- ・企画力向上のために何をしたらいいのか考えることができ、自分でも実践してみたいと思いました。地域の方ともっと交流し、たくさんの方に気づいていきたいと思いました。
- ・「住民のニーズの把握」等、日常の業務の中で努めるようにしています。越村先生のご紹介なされた公民館の課題を地域の課題として、住民を巻き込んだ取り組みにつなげた事例は素晴らしいと思いました。
- ・公民館事業というのは、公民館職員が企画・運営するだけではなく、そのテーマに合った地域の方が主体となることでよい事業ができると感じました。

本研修は、講師 越村氏から、多くの事例をもとに御講義いただきました。社会教育事業のテーマは、住民の「生活」や生活基盤としての「地域」の中にあることに確認をもち、住民と職員が本音の対話ができる関係づくりが大切だということを確認しました。受講者の今後の業務に向き合う意欲が高まった講座となりました。

